

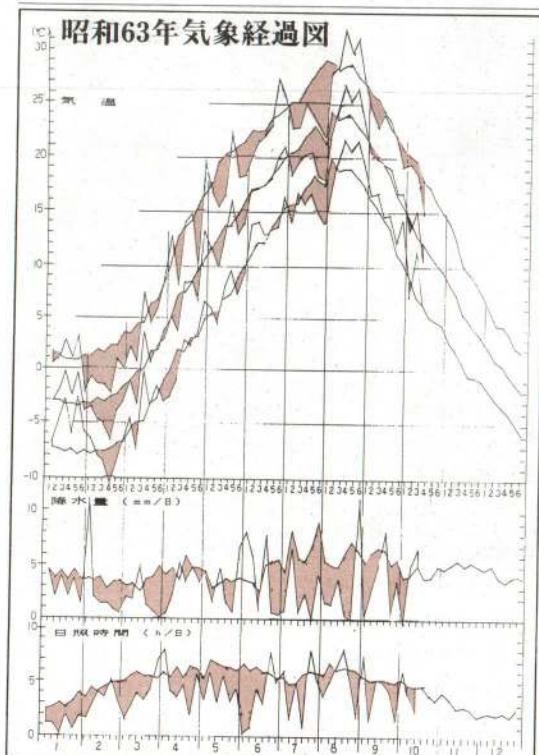
# 冷害対策

# 天災融資法・激甚災害法適用

市では被災農家の救済対策を講ずるため九月に冷害対策本部を設置、北鹿九市町村へ呼びかけ北鹿地域冷害対策本部としたうえで、天災融資法の早期発動や激甚災害法の指定、資金の貸付枠確保等を国へ強力に陳情してきました。

今年の稻作は、六月、七月の低温と七月下旬の「やませ」の影響で、早生のアキヒカリ、あきたこまちに白ふ現象や障害不稔が発生。地域によっては七割以上の減収もみられ、減反強化や米価引き下げともあいまって稻作農家には大打撃となりました。

今年の夏、東北・北関東を中心に襲つた異常気象。十月末現在で当市の冷害による減収額は、約十一億七千万円にものぼりました。国はこの冷害で被害を受けた農家への救済対策として十一月二十二日、天災融資法と激甚災害法を発動し、当市へは両法の適用が決定されました。この法は、被災農家が今後も営農を続けられるよう、低利で経営資金を融通することを主な目的としています。



す。たとえば反収五百<sup>キ</sup>、一ヘクタールの水稻を半分損失したときは三十五万円程度、といった具合です。貸付金利は被害地域や損失率によって三%～五・一%、償還期間も被害程度に応じて四年～七年と幅があります。ケースによって異なりますので、當農計画に沿って有効に活用してください。

今度の冷害対策では融資を柱に、農業共済金の年内支払い、米穀子約概算金の返納利子の減免措置、他用途利用米についての被害農家に対する課税上の特例作況調整などが実施されます。しかし、来年度の転作目標面積等の見直しについてはまだ方向が定まらず、国の関係機関による協議が重ねられています。市では今後、市税の減免等市独自の対策も検討し、被害回復に全力をつくします。

月めぐりの暦は残り一枚にな  
りました。不況の長いトンネル  
でやっと出口が見えてきたと思  
つていたところに、冷害という  
霧がたちこめてきた感じです。  
それにつけても、これまで景  
気回復、内需拡大を求めてなり  
振り構わず必死の努力をしてき  
たことが、少しずつ報われてき  
たと言えるでしょう。

ぬタネは生えぬ」とはこのこと  
でしよう。

まいたタネも一〇〇%は芽を  
出さない、こういう不毛の議論  
でタネをまかなければ、芽は絶  
対に出ません。一〇〇%は無理  
でも、それに近づける努力をし  
ながら、まずタネをまくことが  
必要なのです。景気回復の兆し  
が現れたのはそれがあつたから  
です。そして、どんな努力をし  
てきたのかをキチンと総括する  
ことが極めて大切だと考えます。

被害回復に全力を

ろんですか、減収量が平年の三割以上であること、減収による損失が平年の農業総収入額の一割以上であることの二条件をともに満たしている農家です。



No. 187